知られざる文学賞

全館統一展示

令和4年10月1日～11月30日

ちょっぴりマイナーな文学賞の世界。あなたはいくつ知っていますか？
以下、一部を紹介します。

島清恋愛文学賞

『あとかた』
（千早茜/著 2013年 新潮社）
「のこす」ということをテーマに描かれる恋愛連作短編集です。体と心が触れあった痕跡を遺すためにあがく人間たちの、痛くて優しい物語。愛の本質を的確に描いた表現が魅力的です。

フェミナ賞

『粛清』
（ソフィ・オクサネン/著 上野元美/訳 2012年 早川書房）
旧ソ連時代と独立直後のエストニアを舞台に、激動の歴史に翻弄された二人の女性の邂逅を描きます。

ゴンクール賞

『地図と領土』
（ミシェル・ウエルベック/著 野崎 歓/訳 2013年 筑摩書房）
孤独な天才芸術家ジェドは、世捨て人の作家ウエルベックと出会い友情を育むが、作家は何者かに惨殺される…。著者の最高傑作と名高いゴンクール賞受賞作品です。

おいしい文学賞

『母さんは料理がへたすぎる』
（白石睦月/著 2020年 ポプラ社）
父親を亡くし、家事が全くできない母親と妹たちの面倒を見る15歳の龍一朗。家族の等身大を描いた心温まる物語です。

酒飲み書店員大賞

『太陽がイッパイいっぱい』
（三羽省吾/著 2002年 新潮社）
工事現場でバイトをする大学生が、個性的な登場人物たちと接する中で成長していくお話です。笑いあり、恋あり、人情ありの大阪青春小説です。

第8回 書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へつなげていく企画
第7回の文字は前回の書名から「う」です。

『うんこの博物学ー糞尿から見る人類の文化と歴史ー』
（ミダス・デッケルス／著 山本規雄／訳 作品社 2020.12）

なんだかタブー視されているけど、老若男女みんな気になっている“アイツ”について、文化・科学・歴史を横断しながらユーモラスに論じた一冊。本書各所に散りばめられた参考図版・写真の数々だけでも見る価値あり。

ちらっと

Chiratto
Vol.37

2022年10月-2022年11月号

特集1 知られざる文学賞【全館統一展示】
特集2 オンライン講演会「どう読む？新聞　読み方のススメ～SNS時代にあえて読む3つの理由～」
連載 書名でしりとり
お知らせ 西東京市図書館からのお知らせ FM西東京で紹介した本

西東京市図書館オンライン講演会を実施しました！

どう読む？新聞 読み方のススメ
～SNS時代にあえて読む3つの理由～

講師:奥野斐（おくの　あや）氏（東京新聞記者）
9月3日（土）　Zoomを使用したオンライン開催

SNSを通じて、誰もが気軽に情報を発信できる世の中において、新聞は「時代遅れ」なのか？
ネット社会だからことの新聞の読み方とは、いったいどのようなものなのか？
現役記者である奥野さんに、新聞ができるまでの映像や、実際の紙面を紹介いただきながら、具体的にお話いただきました。

「時間がないときは、気になった記事だけでも読む」「他紙を読み比べることで、自分に『合わない』意見がわかってくる」など、現役記者流の新聞の読み方も教えていただきました。

市内図書館の新聞コーナーには、全国紙はもちろん、専門紙や外国語の新聞もご用意しております。また、中央図書館のデータベース専用席では、朝日新聞クロスサーチ（朝日新聞）と日経テレコン（日本経済新聞）の2種類の新聞データベースを閲覧できます。印刷も可能です（有料）。ぜひご利用ください！

図書館ホームページのイベント報告はこちら↓

各館の新聞所蔵一覧はこちら↓

データベース専用席についてはこちら↓

新聞の読み方について　こんな資料もあります！

『新聞の正しい読み方ー情報のプロはこう読んでいる!ー』（松林薫／著　NTT出版　2016.3）
日本経済新聞の経済部に所属していた著者が、新聞の構成やできるまでの過程から、ビジネスへの活用法までを解説。

『新聞大学』（外山滋比古／著　扶桑社　2016.11）
「知の巨人」と称される著者が、社説、コラム、書評、投書欄、広告など、いくつになっても、誰でもどこでも学べる最良のテキスト“新聞”の活用術を伝授する。

西東京市図書館からのお知らせ

11月23日（水・祝）は、市内図書館全館が休館します。また、田無庁舎電気設備点検による停電のため、図書館ホームページの閲覧もできません。
皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解のほど何卒よろしくお願いいたします。

ＦＭ西東京で紹介した本

**『音楽家の食卓
ーバッハ、ベートーヴェン、ブラームス…11人のクラシック作家ゆかりのレシピとエピソード』**
（野田浩資／著　誠文堂新光社　2020.1）

クラシックの名曲を生んだ音楽家たちは、どんな料理を食べていたのか、知りたくはありませんか？音楽を愛するドイツ料理レストランのシェフが、11人の音楽家たちの足跡をたどり、彼らが食したであろう料理の数々をレシピとともに紹介します。十数年かけて現地を旅した著者は、彼らの生涯だけでなく、生きた時代の文化や食事情や、生まれ育った町の雰囲気までにも光を当て、「間違いなくこのような料理を味わっていたと確信しています」と語っています。

『ふるさと再発見の旅　関東』
（清永安雄／撮影　産業編集センター　2022.4）

日本の原風景に出逢う旅へもういちど一全国津々浦々、著名な門前町から知られざる在郷町まで。ふるさとに埋もれた歴史や風景を総天然色でつづる写真紀行の第5弾は、東京都を含めた関東を収録。地域の祭りや昭和な商店街を取り上げたコラムもあります。西武線沿線では吾野宿が紹介されていて、秩父往還の要所としての賑わいを思い起こさせる街並みは県の登録有形文化財にもなっています。皆さんのなかには、小学校時代の遠足でこの町を歩いた方もいるのではないでしょうか。

発行：西東京市図書館
http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp